

平成29年9月NHK中央放送番組審議会

9月のNHK中央放送番組審議会は、11日(月)、NHK放送センターにおいて、11人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、平成29年度後半期の国内放送番組の編成について説明があり、平成30年度の番組改定とあわせて意見の交換を行った。

続いて、くうねるあそぶ こども応援宣言「ねる子よ育て！」について説明があり、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、10月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

(出席委員)

委員長 大日向雅美 (恵泉女学園大学学長)
副委員長 渡部 潤一 (国立天文台副台長)
委員 今井 忠 (NPO法人東京都自閉症協会理事長)
大川 順子 (日本航空(株)代表取締役専務執行役員)
佐野真理子 (主婦連合会参与)
田中 隆之 (読売新聞東京本社執行役員論説委員長)
出口 治明 (ライフネット生命保険(株)創業者)
永田 紗戀 (書家/花咲く書道 Studio Saren.Nagata 主宰)
西原浩一郎 (金属労協顧問)
比嘉 政浩 (全国農業協同組合中央会専務理事)
藤村 厚夫 (スマートニュース(株)執行役員メディア事業開発担当)

(主な発言)

<「平成29年度後半期の国内放送番組の編成」および
「平成30年度の番組改定」について>

- BS1は後半期の新設番組がすべてスポーツ番組だが、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、スポーツ番組を増やし、盛り上げようという意図があるのか。それともたまたま重なってしまっただけなのか。意図があるなら説明してほしい。また、人気のないスポーツにも光を当て、バランスよく編成してほしい。

(NHK側)

BS1はスポーツにこだわったチャンネルである。東京オリンピック・パラリンピックに向け、平成29年度後半期だけでなく、平成30年度以降の番組改定についてもさまざまに強化しなければいけない。オリンピックだけでなく、パラリンピックにも焦点を当てるなど、できるだけ多くの方々に見ていただける番組編成にしたいと思っている。

- 平成29年度後半期の国内放送番組の編成で「ねほりんぱほりん」がまた10月からスタートするというので、大変喜んでいる。昨年10月からの番組はすべて見た。興味深い職業の方、さまざまな事情を抱えた人たちの本音トークをうまく引き出している。すべて人形におきかえて表現する演出もおもしろい。その一方で、前提として、かなりの取材を重ねているであろう点はNHKらしい番組だと思う。番組では人間の奥深さがかいま見えるところもあり、ある意味で今の時代をしっかりと切り取っている。若者向けの番組と受け止められているようだが、いろんな世代が番組を見ている。秋からの新しいシリーズについても期待している。
- デジタル分野に新しい試みはあるのか。多くの人々の接点がインターネットにシフトしているので、その部分に力を入れて取り組まれることが重要な時期だと思う。別立てで計画されているのであれば話を伺いたい。

(NHK側)

健康のポータルサイトを立ち上げるために準備している。NHKのさまざまな健康情報やNHKスペシャル「人体」シリーズのCGなどを組み合わせ、わかりやすいものにしたい。「NHK1.5ch」、「NHK for School」など、これまでもさまざまな形でやってきたほか、「クローズアップ現代+」のサイトもさらに見やすいものにしていく。デジタルの分野は模索しながらやっている。テレビとの接点が少ない30代、40代の方々に見ていただくためにも、充実したコンテンツを作りたい。

8月31日(木)にハートネットTV 生きるためのテレビ「#8月31日の夜に。 第1部」と、ハートネットTV+ 生きるためのテレビ「#8月31日の夜に。 第2部」(Eテ

レ 後 10:00～10:45)を放送した。9月1日は18歳以下の自殺が年間で最も多い日となっており、その前日である8月31日に放送した。番組を通じて悩んでいる10代が思っていることをそのまま言える場を作ることにした。特設サイトではライブストリーミング配信を実施し、スマートフォンなどからもアクセス出来るようにした。視聴率はそれほどではなかったが、特設サイトへのアクセス数は非常に多かった。サイトの滞在時間が平均1時間30分を超え、異例の長さであった。インターネットと連動した番組の可能性が広がったと感じている。どのようなものが若者の心をとらえるのか、今後も検討したい。

- 福島原発のように、解決まで何十年もかかる問題を取り上げるのは公共放送にしかできないと思っている。また、現代社会において長期的、かつもっとも重要な問題は少子化だと思う。少子化についても長期的に取り上げていただければうれしい。
- 最近の番組を見ていると効果音が気になる。入れたほうが視聴率が上がるのかもしれないが、話を聞いているときに後ろで音楽が入ることがあり、多いと感じる。

(NHK側)

ニュース番組等でもよく指摘をいただく。音声の表現についてはさまざまな検討をしており、できるだけナレーションの少ない番組を制作したり、音響効果の入れ方なども部内で議論している。ご意見をいただいたことについては現場にも伝える。

- NHKの番組は広範囲にわたりバラエティ豊かに、また、放送の良心に従って、編成されていると思う。必ずしも視聴率の高低にとらわれず、今の時点で仮に反響が少なくても公共放送としての役割を果たせるように、来年度以降もこの方向で進めてほしい。視聴者のニーズに応えるだけでなく、公共放送として、文化、社会のあり方を精査し、ニーズを創る・掘り起こすという視点での番組作りも引き続き検討してほしい。

<くうねるあそぶ こども応援宣言「ねる子よ育て！」

(Eテレ 8月19日(土)放送)について>

- 子育てを応援する意志が明確に伝わる番組だった。必要な睡眠時間の確保が子どもの健全な成長にとっていかに大切なものであるのか、睡眠障害が子どもの成長に与える影響の深刻さについて社会へ課題を投じていてよかった。生活スタイルが多様化している中子どもたちがどういう状況に置かれているのか理解を深め、必要な対策を考える意義のある番組だと思った。さまざまな親子の実態、事例が豊富に紹介されており、特に、子育て世代にとっては共感するところが多かったのではないかと。実際に子どもの様子を映像で見ると、想像していた以上に忙しく改めて考えさせられるものがあった。堺市の「眠育」は大変よい取り組みだが、進めるためには、課題がたくさんあると思うので、この番組を契機にさまざまな視点から取材し深掘りしてもらいたい。あえて注文をつけると、乳幼児と就学児童を分け、二部構成にしたほうがより理解が深まったのではないかと。日本の3歳以下の子どもの睡眠時間が世界で最も短いという根拠として、具体的な数字のデータを示してもらいたかった。また1つのデータでそこまで言い切ってもよいのか疑問に思った。就学児童は世界と比較してどうなのかも知りたいと思った。
- 番組を見て、子どもたちの置かれている環境に驚いた。幼児、児童の睡眠の重要性と、子どもたちが十分な睡眠をとりにくい環境に置かれていることを改めて認識した。小学4年生の男の子がどうしても遊びたくて寝るのが遅くなってしまうのは理解できるが、小学5年生の女の子が習い事や、自主学習で睡眠時間が確保できないというのは特殊なケースなのではないかと思った。毎日あのような生活をしているとすればすごいストレスになるのではないかと。睡眠障害の危険性のある子どもがたくさんいることにも驚いた。現在の子どもたちの教育を取り巻く環境について教育の専門家の意見も聞きたかった。中学校の「眠育」や、小学校の「はよねるデー」といった取り組みがなぜ始まったのかきっかけが分かればよかった。子どもに対するインタビューもあればよかったのではないかと。画面の下に視聴者からの投稿が紹介されていたが、後で番組のサイトでも見られるようにしていただければと思った。
- 睡眠障害の深刻さを訴えながら治癒された例もきちんと紹介しておりバランスが取れていた。「ノークラブデー」や宿題の少ない日など具体策をたくさん取り上げたのはよいと思った。「将来大成する大人はかつて厳しい子ども時代を送り、寝る間も惜しんで勉強し、何かに励んだ人もいたはず」という反論もあるかもしれない

い。しかし、番組からは子どもたちの選択肢をなくしてはいけないという主張も感じられた。もっと習い事などをやりたい子どもは自分の意志で、学校の外で挑戦する時間をつくれればいいという、より具体的なメッセージを伝えてもよかったのではないか。

(NHK側)

睡眠時間のデータは、アメリカの小児科医のグループが長年にわたり調べている世界17の国と地域のデータを紹介した。まずはグラフとして出すつもりで用意していたが、出演者の方々と話をする中で、難しい勉強はさておき、「日本の子どもたちは寝る時間を確保するのが難しい」というメッセージをシンプルに伝えてみてはどうかということになった。われわれもかなり悩んだが、根拠となるデータやグラフを出したほうがよかったのではないかと放送後にも議論した。

遅くまで習い事や勉強に追われているケースは特殊な例ではない。3年前、Eテレの「ハートネットTV」で子どもの睡眠について取り上げた。普通に頑張っている子どもたちが続々と睡眠障害と診断されている現場に遭遇した。こういった子どもたちはむしろ増えている。原因として、宿題が多くなっていること、塾へ毎日通うのが当たり前である状況がわかったので、今回子どもをとりまく環境を改めて伝えた。

堺市の取り組みがなぜ始まったかについては、3年前に制作した「ハートネットTV シリーズリハビリ・ケア新時代 脳からの挑戦 第3回「子どもの脳からのSOS」、それを元に翌年放送した、クローズアップ現代「不登校12万人のかけで～広がる子どもの睡眠障害～」で福井県の眠育の放送をたまたま見ていた堺市の方々が自分たちの地域でもやらなければならないと感じて始めたそうである。

- 挑戦的な番組で、新しい取り組みだと感じた。ただ、番組をどういう層に見せようとしているのかがわからなかった。がんこちゃんが出てきたが、話す内容はシリアスなので、子ども向けではなく、親が見る番組だと思った。睡眠の問題を社会問題として考えてはどうかという話があったが、住宅構造や部屋数の問題で十分な睡眠がなかなかとれない場合もあるだろうし、受験など大きな課題もある中で、睡眠の問題だけを切りとってうまく解決策を見出せないのではないか。こういう番組

を続けるのであれば、多角的な視点でやっていただきたい。

- 子どもたちの生活環境は今、非常に不自然になっているのではないかと思う。今回子どもの睡眠をテーマとして取り上げられたことはよいことだと思った。悪戦苦闘しているいろいろな家庭が出ており、リアルでよかった。今の子どもたちは時間に追われて、今という時を未来の準備に使いすぎているのではないか。子どもに見てもらふことも考えるなら、1時間は少し長い。データはサイトに掲載し、放送を2回に分けるなど工夫があってもよかった。
- 小学2年生の娘と一緒に見た。深刻な睡眠障害で病院に通っている子どもの様子を見ると、切実な問題だと思った。娘は1時間の番組の中で、コメンテーターが出てくると飽きてしまったが、同じ位の年の子どもが出ると食いついて見ていたので、子どもの映像が多く出てきたのはよかった。今は、子どもが睡眠不足になっている一方で、母親が毎日何かに追われている状況もあるのではないか。子育て中は他の人と比較されて劣等感や孤独感を抱え、もっとよい母親にならなければと思っている母親が多いと思う。塾に行かせたり、習い事をさせたりするのは子どもを愛しているからだと思うので母親の視点からの放送があっても興味深いと思った。
- 意義深い番組と思っていることを前提として、気がついた点を申し上げたい。一つ目はデータの問題である。寝ると成績がよくなるとか、身長が伸びるという紹介があったが、根拠となるデータが示されなかった。データで示されてはじめて視聴者も納得するのではないか。二つ目は日本の構造問題である。長時間労働など、社会全体の持つ構造問題の一部が子どもに表れているという側面もあると思うので、そういった大きな枠組みの中での議論も展開できるとなよかったのではないか。最後に、都会と地方では子どもの時間の使い方が全く違うような気がする。数でいえば大都市圏の人が圧倒的に多いと思うが、時間に追われている子どもたちがいる一方で、塾に通いたくても塾がない子どもたちもいることにも番組のどこかで触れてほしかった。
- 親しみやすいスタジオの雰囲気の中で、日常気になりつつも流してしまっている大きな課題を取り上げられたと思う。課題は大きく三つあると思った。まず、睡眠不足が心身の健康に与える影響など医学的な問題、次に、今の社会で子どもたちが置かれている環境、教育に関する環境などの問題、そして、両親が共に働いていて、育児にかけられる時間がそれぞれの家庭によって違うといった問題である。二つ目、三つ目の課題はそれこそが社会課題と言えるテーマなので機会があれば取り上げて、まだまだ深掘りをしたほうがよいと思う。子どもとの電話のやりとりや寝かし

つけているところは、自分の子育ての経験を思い出し、見入ってしまった。恐らく視聴者も自身の経験と重ねながら共に考えるよい機会になったのではないか。

- スタジオパートにおいて、又吉直樹さんの存在感がもっと出るとよかったと思う。こういう番組では健全、健康であることが大事であるという一つの価値観に流されがちだが、彼からはそうしたことへの異論を引き出してほしかった。
- 社会問題として睡眠の問題を考えると、今回は子どもの睡眠についてのみ考えていたが、睡眠負債の問題と今回の問題はどこか関連しているような気がする。NHKは睡眠負債について「あさいち」などいろいろな番組で取り上げているが、子どもの問題もこの番組だけでなくさまざまな番組で取り上げてほしい。場合によっては社会構造まで切り込むような大型の番組にすると、社会的に意義のある番組になりうるのではないかと思う。科学的な視点ではデータの出し方が気になった。しっかりとしたデータを裏で持っているのであれば、気になる人が見られるように番組ホームページで提示すればよいのではないか。この番組でグラフを出さなかったのは正解だったと思う。
- Eテレの教育番組は、子どもの問題に意欲的に取り組んでくれている。子育てを社会化することを一大テーマにしたことは今必要とされているところである。この種の問題ではすぐに「親が悪い、母親が悪い」となるが、24時間保育もうまく取り上げてくれて、うれしく思った。Eテレでは「すくすく子育て」も子育て世代に評価が高いが、現状の30分では扱いきれないテーマもあり、こうした拡大版で取り上げてくれたことを評価したい。また「すくすく子育て」は主に乳幼児を対象とした番組であり、一方で学童を扱う番組がまだ少ないのではないか。今後の取り組みにも期待したい。

(NHK側)

指摘いただいた点は真摯(しんし)に受け止めたい。メッセージ性を強く持たせることを優先するか、データをしっかり示すことに重きを置くか、今後の番組作りにおいても頂いた意見はすごく参考になる。大人の睡眠時間が日本の場合はそもそも少ない。特に働く女性は世界で最も短いといわれている。社会全体の問題としていろいろな番組で、この問題を多角的に伝えていきたい。

現在、日本では、食べる、寝る、遊ぶ、ことすらままなら

ない子どもたちが増えている。「くうねるあそぶ こども応援宣言」というプロジェクトは、子育ての問題を家庭だけでなく社会全体で考えていこうという理念から部局横断で立ち上げたものであり、頂いたご意見を参考にしながら、今後もさまざまな番組で継続して伝えていきたい。

<放送番組一般について>

- この2か月はよい番組が多かった。平和を考える時期だったが、中でもよかったのは8月13日(日)のNHKスペシャル「731部隊の真実～エリート医学者と人体実験～」、8月15日(火)のNHKスペシャル「戦慄の記録 インパール」、9月10日(日)のNHKスペシャル「スクープドキュメント 沖縄と核」である。NHKの取材力、調査力が生かされたすばらしい番組で、歴史にも残るようなものだった。視聴者が知りたい情報がきちんと伝えられていたと思う。
- 8月13日(日)のNHKスペシャル「731部隊の真実～エリート医学者と人体実験～」を見た。軍事裁判の音声記録の発掘など、NHKの取材力が発揮されていた。京都大学や東京大学のエリート医学者が731部隊に協力し、細菌兵器を作るための人体実験をしていたことなど、今まで知られていなかった事実を伝えていたのは意義があったと思う。科学者が自分の研究をどのように生かすのか、改めて考えさせられた。元少年隊員の「戦争とは絶対にするものでない」という言葉を教訓として現在の私たちの生活に生かすことを教えてくれたよい番組だと思った。
- 8月は太平洋戦争の実相に迫り、平和の尊さを改めて考えさせられるよい番組がドラマも含め、多かった。NHKスペシャル「731部隊の真実～エリート医学者と人体実験～」を見た。証拠隠滅や関係者へのかん口令が徹底された中、実態について現時点でもいろいろな論議が残るテーマについて、今回はNHKの丹念な取材を通し、戦争の持つ狂気をしっかりと伝えていた。大学と軍事研究について議論されている日本学術会議の様子も取り上げられ、今の時代におけるタイムリー性も感じられた。
- NHKスペシャル「731部隊の真実～エリート医学者と人体実験～」は裁判資料などいろいろなものが紹介され、興味深く見たが最後に防衛省の研究資金について触れたことには違和感を覚えた。この番組は人道に反して大量破壊兵器を作るために医学者が人体実験をしたことに焦点を当てた番組だったのであって、731部

隊の人体実験の話と現代の医学研究の話を安易に結びつけるような印象を与える演出には疑問を感じた。今やっている防衛省の研究は大量破壊兵器と何の関係もないはずである。あくまでも人道に反する行為の当事者となった医学者たちの問題にきちんと焦点を当てるべきだった。

(NHK側)

NHKスペシャル「731部隊の真実～エリート医学者と人体実験～」では、最後に学術会議について触れたが、その点について私たちも議論した。NHKの論理でつないだわけではなく、今年の学術会議の中で大学と軍事研究のあり方について議論が起きており、その中で731部隊の話が取り上げられた事実に基づいてのことだ。

- NHKスペシャル「731部隊の真実～エリート医学者と人体実験～」で学術会議の議論が紹介されたが、学術会議の中身がそういうところに触れているので、NHKが意図的に過去に行われた人体実験と現代の医学研究の問題を結び付けているとは思わなかった。運営費交付金が年々減らされている中で、日本の科学技術立国を担う科学者、特に大学の先生方は苦境にある。その一方で防衛省の研究費は増額を重ねていると聞く。各大学、研究者集団は苦渋の選択を迫られている状況である。731とは切り離し、日本の研究者の置かれている現状についてもどこかで取り上げていただきたい。
- 8月の「NHKスペシャル」は中身の濃い番組が多くてよかった。
8月6日(日)のNHKスペシャル「原爆死～ヒロシマ72年目の真実～」を見た。55万人以上のビッグデータを手がかりにし、被爆者の一人一人の記録を追った意義深い番組だった。焼死、圧焼死、やけどなど原爆による直接の原因だけでなく、放射性物質を含んだほこりが口に入ったことによる内部被ばくも死因であるとはっきりと伝えていた。今の福島の問題もあるので、国が死因として明確に認めていないこともきちんと紹介されていたのはよかった。一人一人の命が無残に奪われたことをこのままにしておくのではなく、死因を明確にすることで尊い命の重さを改めて伝えていた。
- NHKスペシャル「731部隊の真実～エリート医学者と人体実験～」、NHKスペシャル「戦慄の記録 インパール」は毎月再放送をしてもいいくらい多くの人に見てもらいたい番組だった。

- NHKスペシャル「戦慄の記録 インパール」は、軍の人間関係を過度に重視する情緒主義、強烈な個人の突出を許容するシステムの問題、相手戦力の過小評価、補給、情報の軽視という軍の体質を指摘しており、映像の力で説得力を持って伝えていた。戦後においても自らをある意味で正当化し、責任をも転嫁する軍上層部の姿とともに、生き残った元日本兵からの絞り出すような発言の中には事実の重みがあり、今の私たちに問いかける「戦慄の記録」そのものであると強く感じた。

(NHK側)

戦後70年を過ぎ、証言者の方が高齢になり、証言を残す最後の機会となることもある。毎年繰り返し同じような内容で放送することも可能だが、新たな資料を発掘し、新しい発見を重ねることで視聴者に今それを見る意味が伝わるようにしていきたい。

- 戦後72年ということで戦争の悲惨さを語り継ぐこと、伝えることの大切さを改めて感じる。今後とも戦争と平和を考える番組を放送し続けてほしい。
- 8月20日(日)のNHKスペシャル「戦後ゼロ年 東京ブラックホール1945-1946」を見た。映像がおもしろく、工夫をされていた。メッセージ性の強い番組がある一方で、視覚的にもひきつけられて説得力がある番組も放送されるのはよいことだ。
- 8月、9月の一連の「NHKスペシャル」について、戦争と平和に関する番組をたくさん放送してもらった点には感謝している。なかなか取り上げるのが難しい沖縄と核の問題など、多くの新しい事実に触れることができた。
- 8月9日(水)のNHKスペシャル シリーズ東日本大震災「帰還した町で～原発事故7年目の闘い～」を見た。避難指示が解除されたものの、家屋や田畑は野生動物に荒らされ、室内で放射性物質が検出されるなど、浪江町の住民が不安に思っている事実をしっかりと伝えていた。
- 8月20日(日)の目撃！につぼん「お父さん 運転続けますか～高齢ドライバーと家族の選択～」は身につまされる思いだった。自分が老いたときに運転免許をいつ返納するのか、自分の親にいつ運転免許を返納させるのか、シミュレーションすることで我が事として捉えることができた。高齢ドライバーの話題は聞いていたが、本人のプライドや生きがい、思い出、気力の低下などとも関連する問題であること

が学べた。事故を起こしてほしくないという家族の愛情が前提になっているからこそ、本当に難しい問題だと思った。

- 8月24日(木)のSONGSスペシャル「桑田佳祐」(総合 後 10:00～10:50)を見た。私の周りでは連続テレビ小説「ひよっこ」がとても人気で盛り上がり、終わるのが悲しいという声をよく聞く。番組には、ドラマのメンバーがそれぞれの役で出演しており、NHK全体で盛り上げている感じがして、感動した。桑田佳祐さんが主題歌「若い広場」を歌う場面では心が和んだ。
- 9月8日(金)の金曜イチから「なぜだまされる…!? “振り込め詐欺”で見えてきた“メカニズム”」では、人がついついだまされてしまう心理が取り上げられていた。首都圏ネットワーク「ストップ詐欺被害！私はだまされない」では、すでに700回も放送されているが、だます手口はどんどん変化するので、今後もこの問題を取り上げ丁寧な注意喚起をしてほしい。
- 8月26日(土)のETV特集 アンコール「ひとのま ある一軒家に集う人々」を見た。番組では悩みを抱えコミュニティハウスに集まる人たちと受け入れてきた世話人の姿が描かれていた。“支援してあげる”のではなく、“そばで一緒に考える”姿勢でないと解決できない問題があることが改めてよくわかった。
- 9月2日(土)のETV特集「青春は戦争の消耗品ではない 映画作家 大林宣彦の遺言」は、ある意味で本人の強いメッセージが感じられた。おそらく最後になるであろう映画制作に取り組む大林監督に時間をかけて密着し、監督の考えていること、世界観、メッセージを丁寧に、美しい風景とともに拾い上げており、記憶に残る番組だった。戦争そのものをメインテーマとして扱った番組ではないが、平和を願うメッセージがよく伝わってきて感動した。
- 9月2日(土)のTVシンポジウム「協同組合の可能性～相互扶助の精神に学ぶ～」を見た。私も常々、協同組合のあり方などについても一度考える必要があると思っていたので、時宜を得た番組であった。
- 8月のNHKの戦争と平和を考える番組を見て、感銘を受けた。戦争を知る人がどんどん減る中で資料を発掘し、緻密な取材、映像構成で番組を制作していることにはいつも驚いている。その一つに8月13日(日)のBS1スペシャル「なぜ日本は焼き尽くされたのか～米空軍幹部が語った“深層”～」(BS1 後 10:00～10:50、11:00～11:49)がある。印象的だったのは化学兵器を日本が使った場合、日本の都

市を化学兵器で総攻撃するプランを作っていたことである。大量破壊兵器を使うとどんなことが起こりうるのか、学ぶことが多い番組だった。

- 8月26日(土)に再放送されたBS1スペシャル「戦火のマエストロ・近衛秀麿～ユダヤ人の命を救った音楽家～」(総合 前 2:05～3:44)を見た。一般的には杉原千畝さんが有名だが、実は水面下でユダヤ人を助けていた人がもう一人いたということや、その人が“NHK交響楽団”の前身である“新交響楽団”を設立したことは感慨深かった。
- 9月11日(月)に再放送された、奇跡のレッスン「一瞬で“考え”先を読み！卓球(前編)」を見たが、大変勉強になった。コーチの指導を受けた子どもたちは技術もさることながら、精神的に成長するところがよく伝えられていたように思う。これからのスポーツ選手の育成、子どもの成長を考えるのによい示唆を与えてくれる番組だと思った。「失敗を恐れずにいろいろなことに挑戦せよ」「楽しむことが必要である」「もっと考えよ」というコーチのいろいろな発言が印象的で、スポーツに携わる者だけでなく、経営的な立場の人にとってもよいアドバイスを与えてくれる番組だと思った。
- 9月6日(水)の「久石譲 in パリ “風の谷のナウシカ” から “風立ちぬ” まで宮崎駿監督作品演奏会」(BSプレミアム 後 9:00～10:30)を見た。パリの方たちが日本語の歌を上手に歌っているシーンもあった。アニメ作品を通して、国を超えた交流があるのはすごくすてきだと思った。
- 「女王ヴィクトリア 愛に生きる」を見ている。有名なヴィクトリア女王の戴冠式の絵があるが、その絵にそっくりな女優が主人公を演じていたので、チャンネルを合わせたときに本人かと思った。われわれが持っているイメージと同じような俳優を使うことで、さらにイメージが膨らんだ。「大河ドラマ」などでもごく一般の人が抱いているイメージに近い人を起用することも1つの選択肢として可能性があるのではないかと感じた。

NHK編成局
番組審議会事務局